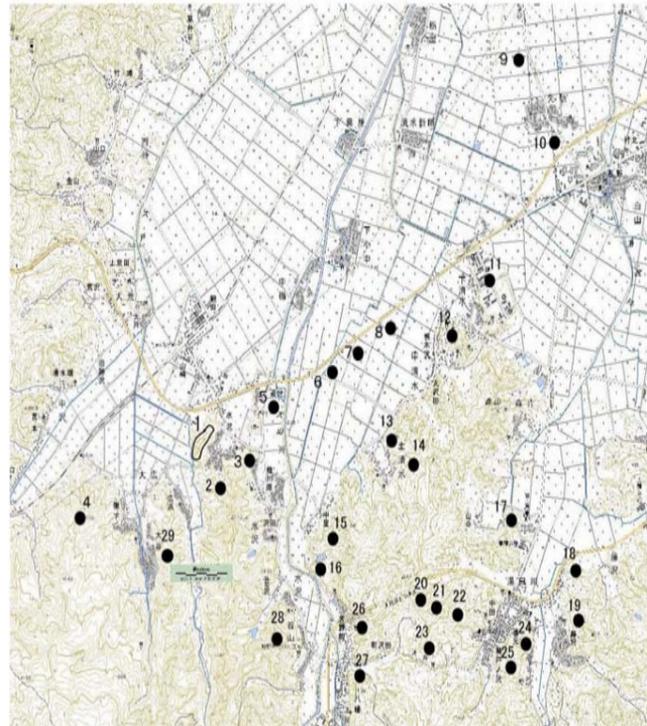


# 木の下館跡(第3次)現地説明会資料

2006年8月27日(日曜日)  
財団法人山形県埋蔵文化財センター



第1図 木の下館跡(1)と周辺遺跡

調査要項	
遺跡名	木の下(きのした)館跡
遺跡番号	平成8年度登録
所在地	鶴岡市大字水沢字水京他
調査委託者	国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)
調査面積	750平方m
現地調査	平成18年4月17日～7月13日
遺跡種別	城館跡
時代	旧石器・縄文時代、中世、近世
遺構	曲輪、道路跡、掘立柱建物跡、土坑、 竪穴住居跡、溝状遺構、炭窯跡
遺物	縄文土器、石器、須恵器、銅銭、 中世陶器、陶磁器、磁器
調査担当者	調査第三課長 渋谷孝雄 調査研究主幹 佐藤正俊 専門調査研究員 黒坂雅人 調査員 深澤 篤
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課 文化財保護室
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社 鶴岡工事事務所 鶴岡市教育委員会・庄内教育事務所

## 1 調査(遺跡)の概要

木の下館跡は、山形県教育委員会の中世城館跡調査によって再確認され、戦国期に築城されたと報告されています。

本遺跡は、平成10年度の日本海沿岸自動車道の計画路線とその周辺の踏査により、計画路線に係ることが分かり、平成17年度に山形県教育委員会の試掘調査(第1次調査)が行われました。その結果、館跡に関連する中世から近世の陶磁器片や縄文土器片等が出土しました。

このことにより、工事との調整が進められ、平成17年度に、館跡の北東地区が第2次調査として実施されました。

第3次の発掘調査は4月17日から始められ、伐採や伐根を繰り返しながら、表土から手作業で掘り進め、急な斜面のため作業の進行に手惑いました。遺構や遺物を検出し、調査区全体を記録し、7月13日に調査を終了しました。

なお、当初の発掘面積は1,500平方mでしたが、調査区の東側が都合によって調査が出来ませんでした。今回の発掘調査面積は750平方mで、調査日数が59日になります。



第2図 調査区全景(北から)



第3図 曲輪跡(南から)



第2図 出土遺物

## 2 遺構と遺物

今回の調査で発見された遺構は、曲輪・竪穴住居跡・溝状遺構・ピット・土坑・炭窯が検出されました。

曲輪は、旧地形である山の形を利用し、斜面を削って構築したことが判り、断面で7段の段をみることが出来ます。2段目からは長径4m、平行する6本柱になる四角い竪穴住居跡が検出されましたが、一部未掘のためどのような性格の住居かはわかりません。

また、斜面の中ほどからは円形で1.5～2m、上に多量の炭くずが、底には真っ赤に焼けた土がみられ、炭窯3基が発見されました。

遺物は、土器や石器が整理箱1箱ほど出土しました。旧石器時代の石器、平安時代の須恵器片、鎌倉時代の珠洲焼、近世陶磁器などが、調査区全体にバラバラに発見されました。

## 3 調査のまとめ

3次調査の成果は、次のとおりです。

- ・曲輪の跡がはっきりと検出され、中世から近世にかけて構築され、2次調査区から南にある本丸への通り道あたり、防御する上で重要な役割をはたしたと考えられます。
- ・炭窯の時期は不明ですが、昨年調査した万治ヶ沢遺跡からも同様に発見されていることから、時期は中世のもので、製鉄との関連が指摘されます。
- ・竪穴住居跡も関連する遺物が無く、時期は不明ですが、炭を焼くための作業小屋のような施設と推測されます。



第3図 作業風景



第4図 ST301・302完掘状況(北から)



第5図 SQ316(北から)

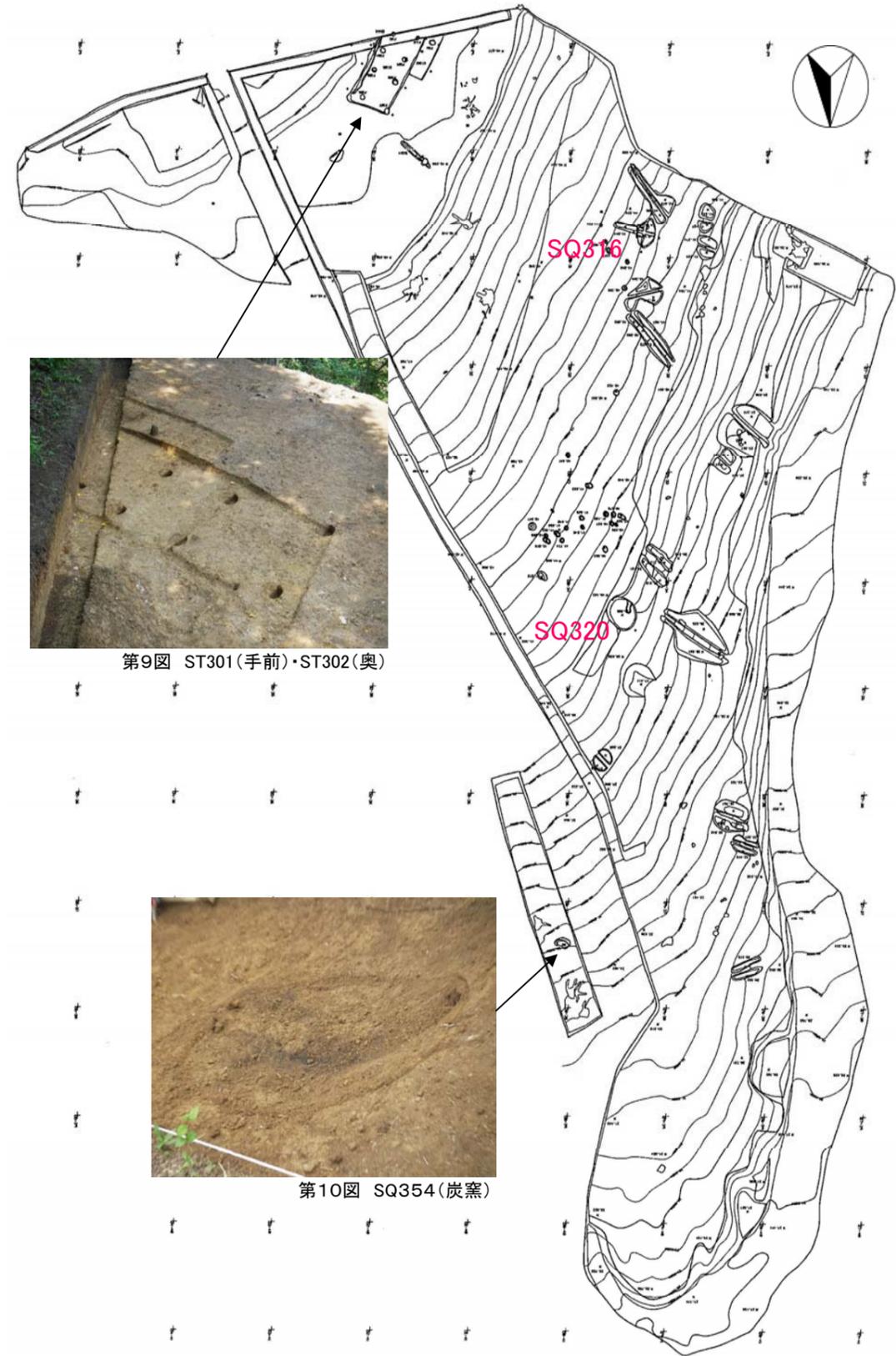


第6図 SQ320(北から)



第7図 調査区全景(南西から)

木の下館跡現地説明会にあたっては、高速道路建設関連の株式会社佐藤組並びに株式会社鶴岡地区クリーン公社には、ご協力いただきまして感謝申し上げます。



第8図 遺構配置図(1:260)